



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / 米、鶏卵、ナス、ピーマン、キャベツ他

進 三剛さん (34歳) (営農地 / 京都郡みやこ町光富)

具体的な目標を持つことが成功への第一歩

《就農のきっかけ》

きっかけは農業者大学校の存在

進さんの実家は米の兼業農家だったため、「将来は米をやることになる」と、進さんは漠然と考えていました。そんな中、高校卒業後の進路決定の際に、当時東京都にあった農業者大学校の存在を知りました。進さんは、農業者大学校のカリキュラム、そして全国各地から集まってくる様々な考えを持った同志たちに魅力を感じ、農業者大学校への進学を決めました。世界トップクラスの経営者を育成するための機関で、そのカリキュラムは大学院にも匹敵します。この農業者大学校で学んだ経験が、専業農家となったきっかけであり、現在の農業経営の原点となっています。

《これまでの過程》

無農薬栽培での安定収穫を目指して

進さんの実家ではアイガモ農法による無農薬米栽培をしていました。農家研修先でも無農薬栽培を研修した進さんは、自然と「農業とは無農薬でやるもの」という考えを持つようになりました。そして、野菜栽培を含めた無農薬による農業経営を始めた進さんでしたが、就農初期はほとんど収穫できませんでした。それでも、無農薬での栽培にこだわりたいという思いは強く、作物栽培の根幹は「土」にあると考え、数年かけて「土づくり」に取り組みました。土づくりの試行錯誤を続け、無農薬での栽培技術を磨きました。

就農当時、米栽培面積1.0ha、野菜栽培面積0.2haだった耕作面積は、現在では米栽培面積3.2ha、野菜栽培面積1.3haまで拡大しています。また、収穫した作物は直接販売を行っており、地域との繋がりを大切にしています。その一環として、田舎暮らしをサポートするNPO団体の理事、みやこ4Hクラブ*の会長も務めており、若い世代を代表する地域の顔として、日々積極的に活動されています。



プロフィール

■家族構成 / 本人、妻、子ども2人 ■営農年数 / 約12年
■耕作(経営)面積 / 4.5ha ■販路 / 直販

《これからの展望》

直販規模拡大

現在、野菜セット(1セット1,000円)、米500円/kgで販売しており、直接買いに来られるお客さんへの販売の他、固定の顧客には週一回の配達を行っています。顧客数を増やしていくために「野菜セットのバリエーションを増やしたい、そのためには野菜の耕作面積を増やす必要がある。」と進さんは考えています。

また、「同じ地域で同じような農業経営をする方が現れてほしい」と考えており、その方々とライバル関係として、お互いに助け合い、競い合って地域を盛り上げ、発展していきたいそうです。

*4Hクラブ… 農村の青少年が地域社会において交流と親睦をはかりながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともにひろく生活上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループである。4Hとは、head(頭)、hand(手)、heart(心)、health(健康)の頭文字をとったもので、活動の目標を象徴している。



Good 成功のためのポイント

農業をやっているのではなく農業経営をやっている。農業をやるのと農業経営をやるのでは全く違う。その違いに気づき、コスト管理、体調管理、具体的な目標設定ができるようになれば、成功の第一歩といえるのではないかと考えています。